

棚田地域振興事例集

はじめに

我が国の棚田は、長きにわたり国民への食料供給にとどまらず、国土の保全、水源の涵養、自然環境の保全、良好な景観の形成、伝統文化の継承等に大きな役割を果たしており、国民共有の財産であり宝であります。

しかしながら、全国各地で歴史的にも地域的にも多様な棚田が、担い手の減少等により数年後には荒廃してしまう危機に直面しており、早急に効果的な対策を講ずることが不可欠となっております。

このような中、令和元年8月に棚田地域振興法が施行され、多様な主体が参画する地域協議会による棚田を核とした地域振興の取組を関係府省庁横断で総合的に支援する枠組みが構築されました。

本法律の施行後5年が経過した現在、多くの地域において本法律を活用いただいております。

本事例集について

今回は、各地域のご協力のもと、指定棚田地域に指定され、指定棚田地域振興活動計画を策定している地域において、取組前の状況から棚田地域振興法制定後、どのような取組がなされ、どのような成果があったのかを事例集として紹介しております。

棚田地域振興法の効果の把握と活用方法のモデルとなることを期待して作成しております。

目次

- 1 大川原棚田（青森県黒石市）
- 2 旧宮守村棚田（岩手県遠野市）
- 3 大張沢尻棚田（宮城県丸森町）
- 4 横倉の棚田（秋田県藤里町）
- 5 榎平の棚田（山形県朝日町）
- 6 上堰棚田（福島県喜多方市）
- 7 大山千枚田（千葉県鴨川市）
- 8 石部の棚田（静岡県松崎町）
- 9 稲倉の棚田（長野県上田市）
- 10 山室の棚田（長野県伊那市）
- 11 明晶集落の棚田（新潟県見附市）
- 12 蒲生の棚田・儀明の棚田（新潟県十日町市）
- 13 池谷・入山の棚田（新潟県十日町市）
- 14 鋤江の棚田（新潟県胎内市）
- 15 長坂の棚田（富山県氷見市）
- 16 鉋打棚田（石川県七尾市）
- 17 菅浜の棚田（福井県美浜町）
- 18 奥住小保木棚田（岐阜県郡上市）
- 19 中野方地域棚田（岐阜県恵那市）
- 20 千万町棚田（愛知県岡崎市）
- 21 西山の棚田（三重県伊賀市）
- 22 仰木の棚田（滋賀県大津市）
- 23 走井棚田（滋賀県栗東市）
- 24 毛原の棚田（京都府福知山市）
- 25 中田の棚田（和歌山県紀美野町）
- 26 追谷の棚田（島根県奥出雲町）
- 27 東栗倉棚田（岡山県美作市）
- 28 木与の棚田（山口県阿武町）
- 29 東後畑の棚田（山口県長門市）
- 30 小蓑の棚田（香川県三木町）
- 31 吉延の棚田（高知県本山町）
- 32 つづら棚田（福岡県うきは市）
- 33 中田棚田（佐賀県伊万里市）
- 34 くまむらの棚田群（熊本県球磨村）
- 35 春日の棚田（長崎県平戸市）
- 36 枥又棚田（宮崎県高千穂町）
- 37 尾下の棚田（鹿児島県指宿市）

1 棚田法活用で人を呼び込む地域活性化

【大川原棚田・青森県黒石市】

○棚田地域保全活動の一貫として棚田米のブランド化や牡丹そばの栽培及び加工品の販売に取り組み、地域振興として地区内外の方と楽しく交流し、地域を元気にする活動を展開中。

基本情報



大川原棚田（秋の風景）

- 棚田の名称 : 大川原棚田
- 面積 : 32.6ha
- 指定棚田地域 : 黒石市大川原地域（旧山形村）

- 認定・表彰実績等
- ・ つなぐ棚田遺産認定（R4）
- ・ 黒石市が大川原地区を含めてオーガニックベジ宣言（R5）



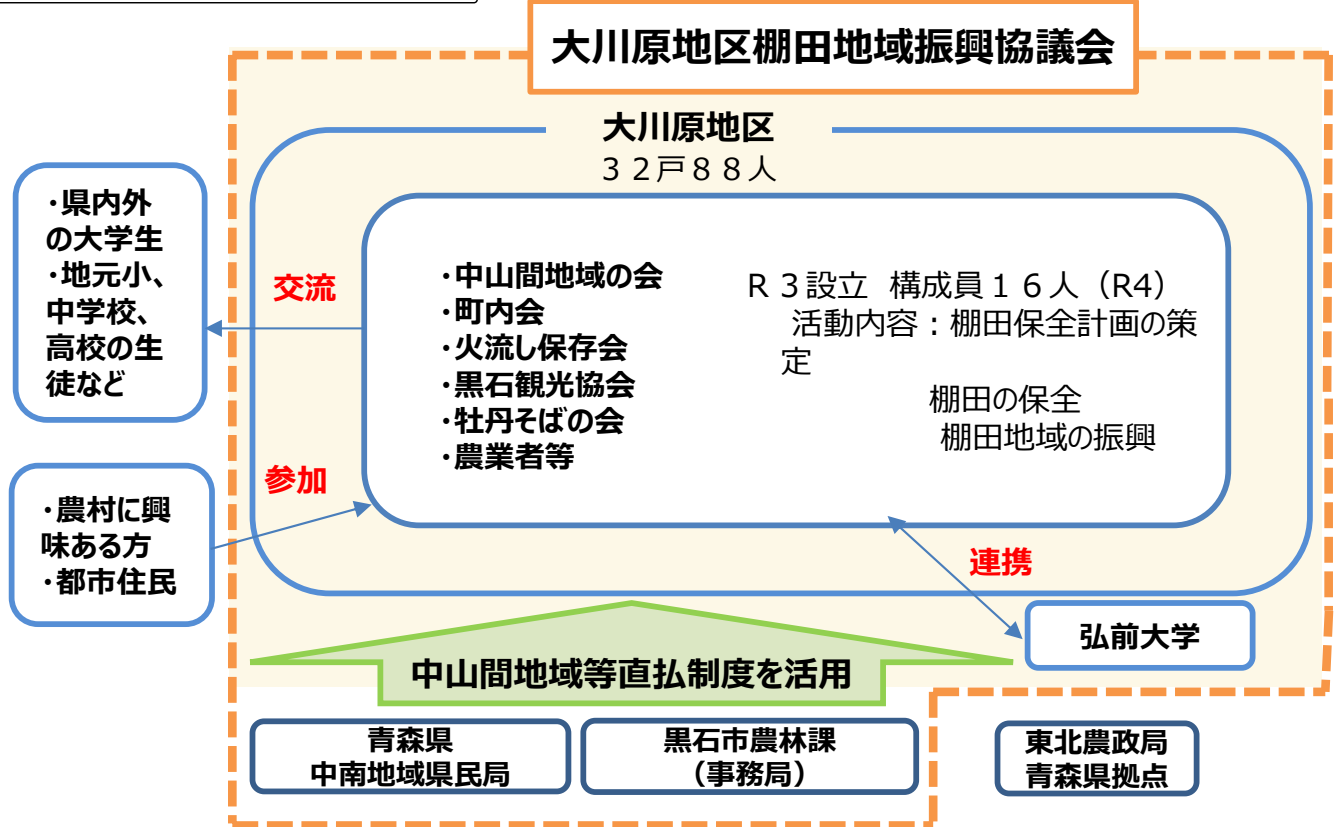
R4年に設置した大看板

活用した事業

- 黒石市の補助金を活用し、R4年度に水田用除草機を1台リース導入。
- 県の棚田基金を活用し、大看板や地元小学生による農作業体験、棚田米のパッケージを作成。



協議会の構成員と体制



コンシェルジュの活用状況

- 大川原地区で毎年開催される棚田地域振興協議会にオブザーバー参加し、棚田の保全、棚田地域振興策について意見を交換している。



取組前の地域の状況

農業者の減少・高齢化が進行

地域内では高齢化による担い手不足が深刻な状況であり、耕作放棄された棚田が目立っている状況であった。

また、狭小な区画なため機械化が困難で、農作業に多大な労力が必要であった。



棚田地域は地元の農業者によって稲作のほか、牡丹そばを栽培して保全されてきた。



棚田地域振興活動計画に基づく

取組内容

土地利用

棚田等の保全

棚田の耕作放棄の防止・削減のため農地の保全管理作業の実施。農道を補修し棚田が維持されている。



補修された農道

しごとづくり

農産物の供給の促進

棚田米のパッケージを作成して差別化を図り、産直施設等で販売。

牡丹そばを活用した6次産業化の推進

棚田で生産される「牡丹そば」を製粉だけでなく製麺した上で集落内の産直施設で販売するほか、市が開催する「地産地消フェア」や大手スーパーでの販売。

活力づくり

都市農村交流を通じた関係人口の創出・拡大による地域振興

都市部の大学生を中心に現地の祭事「大川原の火流し」や農作業に参加してもらうことで都市と農村交流を図る。地元小学生によるそばの種まき、収穫体験等を通じて棚田の環境保全について学習。



取組後（取組が棚田地域にもたらした効果）

しごとづくり

棚田米のブランド化

令和4年に棚田で作ったお米のネーミングを募集し、「火流し恋し」に決定。毎年8月の大川原地区で行う祭事「大川原の火流し」に由来。

販売先は黒石市内の小売店、おみやげ屋等。今後も販路開拓を目指す。また、寿司専用米として希少価値の高いムツニシキを有機栽培で作付。販売先は県内寿司店、香港の高級寿司店にも販売している。



パッケージ(左)

希少な在来種「牡丹そば」の生産から加工品の販売、食堂での提供

協議会が主体となり、棚田で生産される「牡丹そば」を商品化。加工品（乾麺）を集落内の施設、イベント、大手スーパーで販売。近隣の食堂でそばを提供する他、加工品を販売。



牡丹そばの商品化（乾麺）

活力づくり

棚田を次世代につなぐ

県内外の大学生がワーキングホリデーに参加し、棚田地域の農作業や祭事の準備等の体験、地元小学生が農業体験することにより交流人口が拡大。

2 棚田地域における棚田保全や振興活動の活性化

【旧宮守村棚田・岩手県遠野市】

○棚田保全を軸とした、農山漁村発イノベーションを取り入れた複合的な取り組み。

基本情報

遠野市



岩手県



- 棚田の名称 : 旧宮守村棚田
- 面積 : 78ha
- 指定棚田地域 : 旧宮守村
- 認定・表彰実績 :
つなぐ棚田遺産認定
第50回農林水産祭むらづくり部門天皇杯受賞（平成23年度）
総合化事業計画認定

協議会の構成員と体制

宮守村棚田振興協議会

宮守川上流地域

協力農家132人
耕作面積約95ha)

農事組合法人 宮守川上流生産組合

H8設立(法人化平成16年)
) 構成員182戸

活動内容：棚田保全・振興計画の
策定、6次産業化の推進拡大、農
泊・農業体験等の受入れ

遠野山・里・暮らしネットワーク

連携

- ・農業体験
イベントの協力
- ・農福連携
活動への協力

農福連携

スマート農
機連携

運営
棚田米、農産加工品
販売

地元就労支援
施設

農機メーカー

・産直
・ネットショップ

中山間直払等活用

遠野市

岩手県

国

都市住民

活用した関係省庁の事業

- 活用した事業名
中山間地域直接支払制度
6次産業化施設整備事
- 活用のポイント
スマートフォンで水管理できるシステム導入
ドローンでの直播等のスマート農業
自走式ラジコン草刈り機の導入
ジュースパック充填機の導入



コンシェルジュの活用状況

● 協議会からコンシェルジュに相談したこと

棚田の保全及び振興に農福連携を取り入れるため、施設の整備などに利用できる補助金などの制度がないか相談した。

取組前の地域の状況

農業者の減少・高齢化が進行

地域の圃場整備事業（平成6～13年度）を契機に地域内の農家が集まり「一集落一農場」のスローガンのもと設立した「宮守川上流生産組合」（以下、「組合」）が農地の有効活用や棚田の維持・管理に努めていた。しかし、地域の人口減少や高齢化の状況は高い水準であり、農業者及び組合員が高齢化しており、離農者が増加していくことが危惧されていた。

棚田の状況悪化

棚田自体も、圃場整備から15年以上の時間の経過とともに、一部崩落や圃場条件の悪化が見られていた。作業効率・安全面からも持続的な農業活動を続けられるように対策を講じる必要があった。

共同体の存続・棚田の機能及び景観の維持のため、農作業の効率化が急務

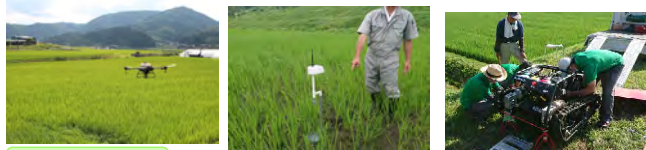
棚田地域振興活動計画に基づく 取組内容

しごとづくり

・スマート農業の導入

中山間直払を活用して、スマートフォンで圃場の水を管理できるシステムや農業用ドローンを導入。
また、農機具メーカーとの連携により、ラジコン草刈り機の実証試験を実施。

農作業の省力化に成功！

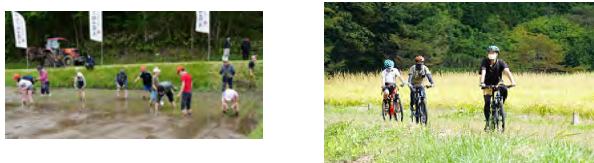


活力づくり

・地元NPOとの連携

地元NPOが主体となり、棚田ファンクラブの運営や農業体験の受け入れを行うことで、それらの実施に伴う農業者の負担を軽減。

効率的な関係人口の増加に成功！



農業者の負担を低減しながら、棚田の維持及び関係人口の増加が可能に！

さらなる展望

しごとづくり

・リモコン草刈り機の開発

実証試験の結果をもとに、45度の斜面でも走行可能、その場旋回が可能で狭い幅の場所にも対応する、など中山間地域の実情に適した機能を持つ自走式ラジコン草刈り機を農機具メーカーと共同開発。

・独自商品の展開

棚田地域で取れた生食用トマトを使った100%ジュースや、どぶろく特区であることを生かして、棚田米で作ったどぶろくなど、独自性と高品質が売りの商品を開発し、販売だけでなく、その商品を活用した地域外の人も参加するイベントを展開。



活力づくり

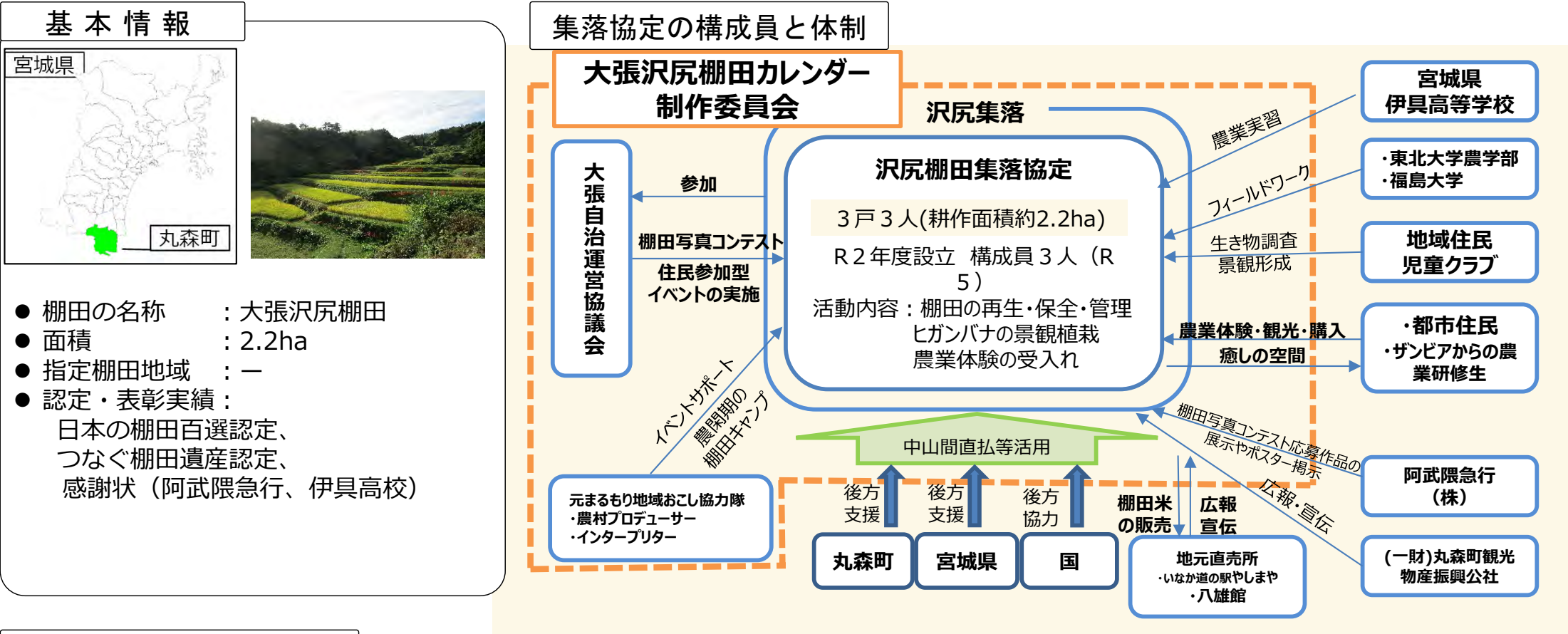
農福連携の取組

棚田での作業や加工品製造作業に、地域の福祉施設の利用者を受け入れ。



棚田を軸として、農業だけでなく、地域全体の活性化へ

○棚田カレンダーの制作で、四季折々で美しい表情をみせる風景を未来に残すため、新たな仕組みで情報発信。



取組前の地域の状況

農業者の減少・高齢化が進行

中山間地域等直接支払制度の第1期対策（H12～H16）を取り組んだが、2期対策以降、農業生産活動の継続が見込めず活動を休止した。耕作者の最高齢者が92歳を迎え、体力的に所有する水田の耕作ができなくなった。



耕作放棄

家の後継者が不在で、同じ地区内に住む耕作者も他産業に従事しており、受託できる者も見つからず所有する水田が耕作放棄地となった。



棚田地域振興活動計画に基づく

取組内容

土地利用

・棚田の復旧

自治組織の事務局長を務めていた現代表が、棚田の景観を守るため耕作放棄された棚田を受託し復旧。中山間地域等直接支払制度を第5期対策（R2～R6）から再開。

しごとづくり

・体験学習と景観形成

地元高校生の農業実習の場。令和4年までは、県内の大学生による地域交流サークル「みやぎINAKAゼミ」による農業体験とヒガンバナの景観植栽。ザンビアからの研修生も参加。



ザンビアの研修生



高校生の農業実習

・イベントの充実

棚田写真コンテストの開催と、サポート企業とのタイアップ。農閑期の棚田キャンプ。令和5年から自治運営協議委員会の主催で生き物調査とヒガンバナの景観植栽を開催するとともに、大張沢尻棚田カレンダー制作委員会を中心に新しい体制で活動。



棚田キャンプ



生き物調査

取組後（取組が棚田地域にもたらした効果）

土地利用

耕作放棄面積が解消

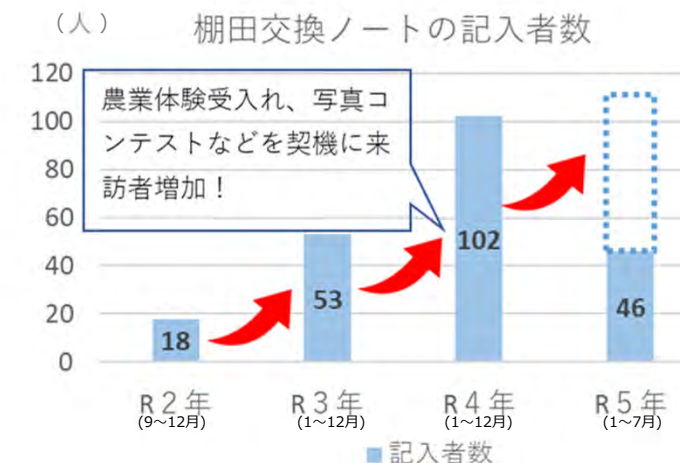
耕作放棄された棚田を復旧し、耕作放棄面積がなくなる。



しごとづくり

農業体験・イベントで来訪者が増加

棚田を訪れた人と集落の方々との交流のため棚田近くの東屋に「棚田交換ノート」を設置。すべての来訪者が記入するわけではないが、確実に増加。



4 世界自然遺産「白神山地」の麓に佇む棚田を地域の力で守りぬく

【横倉の棚田：秋田県藤里町】

○白神ぶなっこ教室との連携による棚田オーナー制度に取り組み、関係人口の拡大と棚田の保全活動を継続。

基本情報



秋田県山本郡藤里町藤琴字横倉
令和3年2月25日 指定棚田地域 認定

- 棚田の名称：横倉の棚田
- 面積：7.43ha
- 勾配：1／6
- 指定棚田地域：旧藤琴村
- 認定表彰実績：
 - ・つなぐ棚田遺産認定
 - ・「守りたい秋田の里地里山50」認定（秋田県認定）

活用した関係省庁の事業

- 中山間地域等直接支払交付金



協議会の構成員と体制

横倉地区棚田地域振興協議会（R3設立）

横倉集落協定参加者

- ・会長1名
- ・個人4名
- ・横倉わさび組合
- ・横倉-冷水 水利組合
5個人2組織

秋田県山本地域振興局
農林部農業振興普及課

J A あきた 白神
藤里営農センター

秋田県農業共済組合
北秋田山本支所

藤里町農業委員会

藤里町農林課

中山間地域
等直払活用

藤里町

秋田県

連携

棚田オーナー制度による都市
農村交流イベントの実施を通じた関係人口
の創出



白神ぶなっこ教室

情報提供・収集、意見交換、フォローアップ

国

コンシェルジュの活動状況

- 田植え、草刈り及び稲刈り等基幹作業の関連情報を得て、可能な限り参加しながら意見交換等によりフォローアップを行う。
- 棚田がある中山間地は、担い手の確保が平場に比べ困難な状況にあるが、秋田県と情報交換を行い、地域の意向を基にできることを模索して行く。

取組前の地域の状況

農業者の減少

・高齢化が進行

- ・藤里町では、人口減少及び高齢化による担い手不足により、棚田を含めた耕作放棄が進みつつあった。このため担い手や後継者の確保が最大の課題となっている。
- ・なお、横倉棚田地域に居住している農業者はいない。秋田市や近隣地域から棚田まで通い作業及び管理を行っている。

藤里町 4月末現在	人口 (人)	高齢化率 (%)
平成23年度 (10年前)	3,934	39.1
平成28年度 (5年前)	3,532	43.9
令和3年度 指定初年	3,048	48.4

* 高齢化率：人口に対する65歳以上の割合

耕作放棄

- ・棚田地域は、平場と比べ明らかに生産性が劣り、加えて農作業の効率が悪いため、年々耕作放棄地が増えていた。

棚田地域振興活動計画に基づく

取組内容

棚田の保全

- ・中山間地域等直接支払交付金を活用し、荒廃農地ゼロの現状を維持する。また「農業生産性の向上を図る取組」として、共同活動を行い省力化を図る。
- ・担い手の確保の取組として、横倉集落協定参加者を中心に、棚田の保全に取り組む人数を維持する。
- ・棚田地域での農産物の生産面積を維持する。



活力づくり

棚田オーナー

- ・棚田を軸とした棚田地域の振興
- ・都市農村交流を通じた関係人口の創出・拡大
- ・棚田オーナー制度による参加者人数の増員

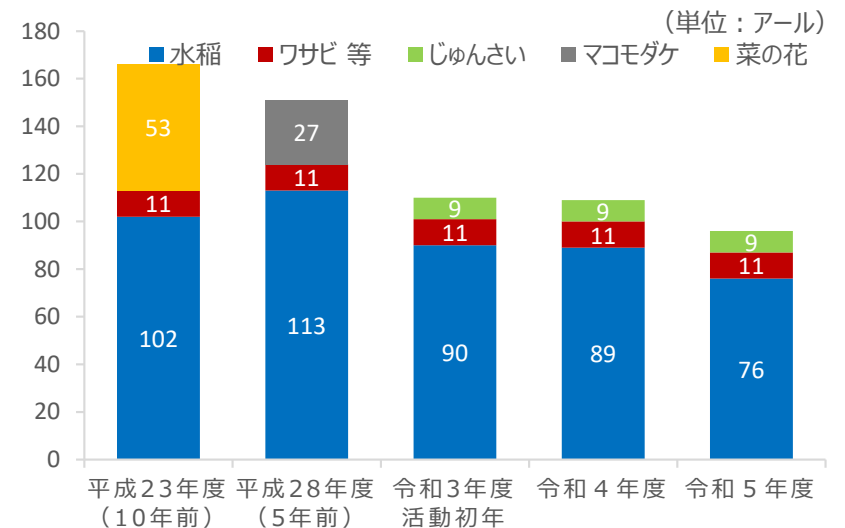
取組後（取組が棚田地域にもたらした効果）

棚田の保全

荒廃農地ゼロ維持と農産物作付面積

- ・指定棚田地域に認定後、農産物作付面積は、微減しているものの、今後、需要が見込めるマコモダケを再び作付ける予定である。

横倉棚田農産物作付面積の推移



活力づくり

棚田オーナー

保全活動等関係人口について

- ・コロナ禍で各種イベントの中止はあったものの、集落地協定やオーナー及び有志等の参加により、棚田の景観保全は維持されている。

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
田植え体験参加者	中止	中止	中止
草刈・自然観察参加者	中止	9	13
収穫体験参加者	11	10	10月中旬予定
棚田オーナー人数	16	16	15

5 棚田法活用で人を呼び込む地域活性化

【樺平の棚田・山形県朝日町】

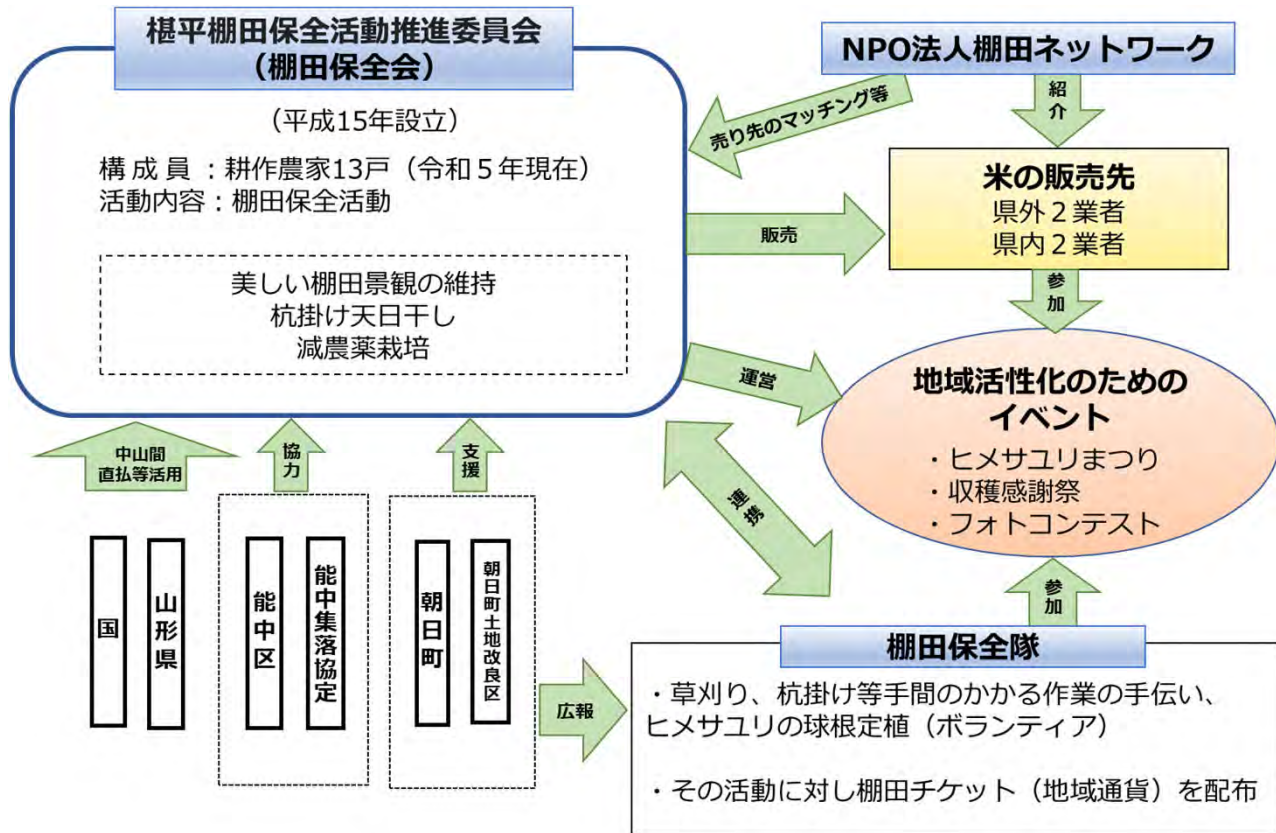
○みんなの財産「棚田」を守るため、地域での話し合いや交流・イベントなどの地道な実践と、棚田米のブランド化により、支援者や観光客が増加し棚田と地域の保全につながる。

基本情報



- 棚田の名称 : 樺平 (くぬぎだいら) の棚田
- 面積 : 14ha
- 指定棚田地域 : 旧西五百川 (にしいもがわ) 村
- 認定・表彰実績 :
 - 日本の棚田百選認定、
 - 第1回美の里づくりコンクール
 - 農林水産省農村振興局長賞
 - つなぐ棚田遺産
 - 令和4年度農業農村整備優良コンクール
 - 中山間地域等振興部門全国水土里ネット会長賞
 - (元能中 (もとのうじゅう) 地区)

協議会の構成員と体制



活用した関係省庁の事業

- 活用した事業名
中山間地域等直接支払制度 (棚田地域振興活動加算)
多面的機能支払交付金

コンシェルジュの活用状況

- 令和5年2月 「山形県内指定棚田地域協議会との情報交換会」時に鳥獣被害対策事例の紹介依頼
- 令和5年7月 意見交換

取組前の地域の状況

後継者不足と耕作放棄の発生

・米価低迷、耕作者の高齢化に伴う稲作の後継者不足。

・農業用施設の老朽化に伴う維持管理の負担増。

・高齢化による耕作放棄地の発生。

ヒメサユリ保全

・ヒメサユリの保全には地域全体でまともっていた。



棚田とヒメサユリ

棚田地域振興活動計画に基づく

取組内容

土地利用

冬期湛水による環境保全等

- ・耕作放棄率は、現状の3%を維持する。
- ・共同活動が行われる元能中の団地における農地集積率を60%に増加させる。
- ・環境保全型の農業（冬期湛水等）を実施。
- ・棚田周辺に継続的にヒメサユリを植栽し、植栽箇所を1箇所から2箇所に増加させる。



冬期湛水

活力づくり

関係人口・交流人口の増加

- ・棚田の保全に取り組む協力隊員（棚田保全隊）の人数を増加させる。
- ・ヒメサユリまつり、収穫感謝祭を継続的に開催し、地域住民と棚田保全会の交流を図る。郷土料理の振る舞いや餅つき等を実施し農村文化や地域の伝統を継承する。
- ・棚田地域における移住・定住者を0人から2人に増加させる。
- ・棚田の周辺に案内看板を整備し、年間6,000人の観光客を誘客する。
- ・棚田米を原料とした笹巻や、地元農産物を使った加工品を一本松公園直売所で販売し、年間40万円の売り上げを達成する。



収穫感謝祭の様子

取組後（取組が棚田地域にもたらした効果）

しごとづくり

棚田米のブランド化

減農薬、天日干し、棚田の景観を付加価値として取引。県内外への販路を確保し販売量が増加。

販売量：H19 50トン



R4 60トン



棚田米

活力づくり

棚田保全隊員の登録数等が増加

・観光PRにより観光客来訪者数が約3割増加。



直売所の様子

R1 年間約6,000人



R4 年間約8,000人

・棚田の生産活動や景観維持に賛同する棚田保全隊員を募集し、水路の草刈り、収穫作業、植栽活動などに参加する対価として、地域の農産物と交換できるチケットを配布。隊員の協力により見事な風景が戻り、棚田米に付加価値がついた。

棚田保全隊員の登録数

H19 40人



R4 104人



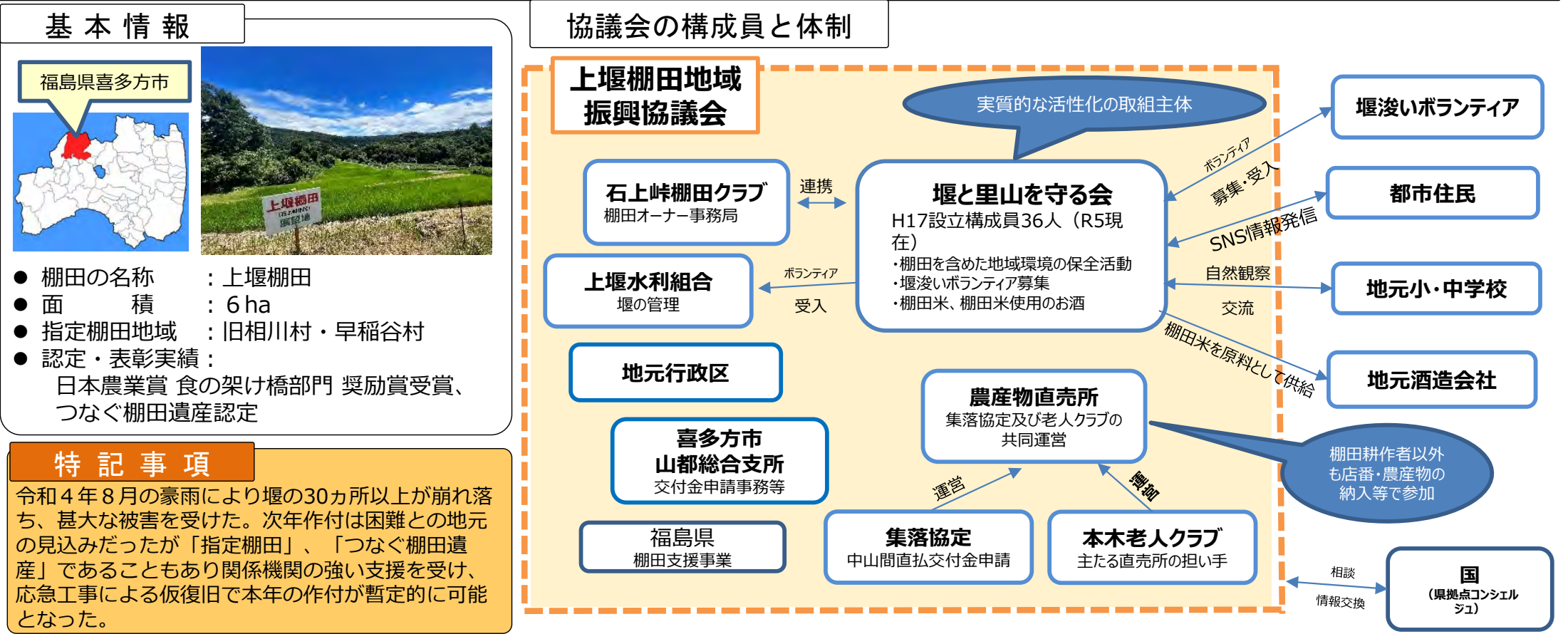
棚田チケット

・地域住民と棚田保全会との交流「ヒメサユリ祭り」開催。

6 上堰（うわぜき）の奇跡 豪雨被害を乗り越え270年以上守り続けられてきた田を守る

【上堰棚田・福島県喜多方市】

○棚田を潤す、江戸中期に農民の手によって造られた用水堰を守るため、都会から移住して就農した青年が、山の中の堰浚いのボランティアを首都圏から募集してはどうかとの発案で都市部との交流が始まる。棚田を守るには堰が必要とボランティアも使命感から連年参加し20年以上都市交流と地域活性化の取組が続いている。



活用した関係省庁の事業

中山間地域直接支払交付金

- ・活用のポイント→ 棚田加算による農産物直売所の設置、自走式除草機購入等


（県事業）

「ふくしまの棚田」活性化モデル育成事業

- ・活用のポイント→ 案内看板や活性化取組の先進地研修

コンシェルジュの活用状況

- ・協議会の立上げ時の話し合い
- ・指定棚田地区へ向けての申請手続きの相談
- ・指定後の状況について随時情報交換



地区の方とコンシェルジュとの棚田指定に向けた話し合い

取組前の地域の状況

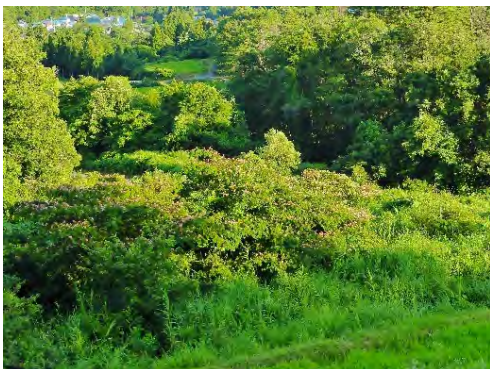
農業者の減少・高齢化が進行による堰の保全が困難に

厳しい地形に造られ江戸時代から守られてきた堰（全長6km）を守らなければ棚田と里山が織りなす美しい田園風景がこの地から消えることを意味。



耕作放棄

山間の棚田では農地を集約しての大規模化は難しく米価も低迷し後継者が現れることも期待できない。



棚田地域振興活動計画に基づく

取組内容

土地利用

活力づくり

- ・ 棚田の保全
- ・ 耕作放棄の防止・削減

堰浚いボランティアの支援を受け、棚田を潤す堰を守り、棚田を維持管理



しごとづくり

- ・ 棚田米（上堰米）のブランド化、インターネット販売による販路拡大
- ・ 棚田米（上堰米）を原料としたお酒の販路拡大
- ・ 棚田の近くに農産物直売所を開設



取組後（取組が棚田地域にもたらした効果）

土地利用

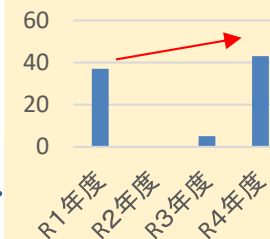
活力づくり

・ 継続した堰浚いボランティアによる支援

コロナ禍による影響を受けて支援受入の中止、堰の豪雨被害等の困難な状況を経ても継続したボランティアを確保。

R1、R2は受入制限実施
コロナ禍以前よりも増加

ボランティア参加数

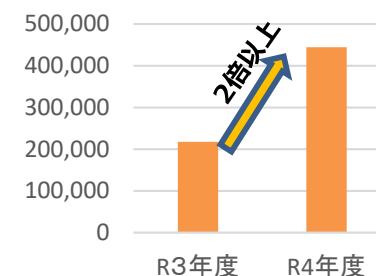


しごとづくり

農産物直売所の売上額の増加

案内看板の設置、新聞折込チラシによるPR、棚田米の小サイズ真空パック採用、仮設トイレの設置等の取組を実施。

農産物直売所売上額

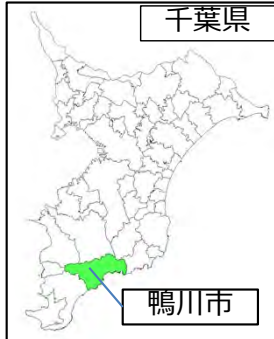


7 都市と農村が結束した地域活性化活動

【大山千枚田・千葉県鴨川市】

○「東京から一番近い棚田」として、全国に先駆けたオーナー制度など、都市農村交流を通じた地域活性化イベントを多数開催し、年間来訪者は3万人以上！

基本情報



収穫時期の棚田

- 棚田の名称 : 大山千枚田
- 面積 : 3.2ha
- 指定棚田地域 : 旧大山村
- 認定・表彰実績 :
日本の棚田百選認定、
つなぐ棚田遺産認定、
豊かなむらづくり全国表彰事業農林
水産大臣賞受賞（NPO法人大山千枚田
保存会）

協議会の構成員と体制

鴨川市中山間地域等 活性化協議会

等鴨川農家民泊組合
鴨川温泉旅館業協同組合
一般社団法人鴨川市観光協会

観光等の
事業連携

旧大山村集落

総農家数130戸 耕作面積約103ha

NPO法人大山千枚田保存会

H15設立 構成員188名（R4）

活動内容：棚田の保全活動
棚田米のブランド化
農家レストランの運営
自然体験活動の運営
情報の収集・発信 等

教育

県内外小学校・
中学校・高校・大学

自然体験・農
産物の販売で
事業連携

・NPO法人棚田
ネットワーク
・NPO法人千葉
自然学校
・安房農業協同組合

運営

古民家レストラン
「ごんべい」

イベント

都市住民

参加・交流
観光・購入
耕作放棄防止
活動への協力

中山間直払等活用

鴨川市

千葉県

国

活用した関係省庁の事業

- 中山間地域等直接支払交付金（農水省）
- 交付金を活用し、①耕作放棄の防止・削減、②各棚田における農業者の世代交代のサポート、③草刈機の共同購入等による作業負担の軽減等を実践している。

コンシェルジュの活用状況

- 協議会の設立や計画策定に係る相談
- 各種表彰等の実施の紹介

棚田オーナーによる共同作業



取組前の地域の状況

農業者の減少・高齢化が進行

高齢化による担い手不足が深刻な状況であり、耕作放棄された棚田が地域内でも目立っている状況であった。また、狭小な区画なため機械化が困難で、農作業に多大な労力が必要であった。

棚田の中央部に耕作放棄地が発生



耕作放棄

棚田米は、生産量が少ない上に、販路も確立しておらず、安定した収入に繋がらなかった。

雑草が繁茂した耕作放棄地



棚田地域振興活動計画に基づく 取組内容

土地利用

・棚田の復旧・維持

保存会が中心となり棚田オーナーやボランティアを動員して耕作放棄された棚田の復旧・維持活動を実施。中山間直弘の棚田加算を活用して活動経費に充てている。

都市住民等と連携した活動



共同作業で棚田の土羽を補修

活力づくり

・保存会の体制強化・イベント開催

棚田の保全に理解を示す企業との連携を推進するとともに、古民家レストランの運営や棚田ライトアップイベントの開催等により関係人口が増加。

・棚田オーナー制度の充実

棚田オーナー制度、棚田トラスト、食育・自然・農村文化体験など、多様な参加方法を検討し、各種制度の充実を図る。

棚田オーナーによる田植え

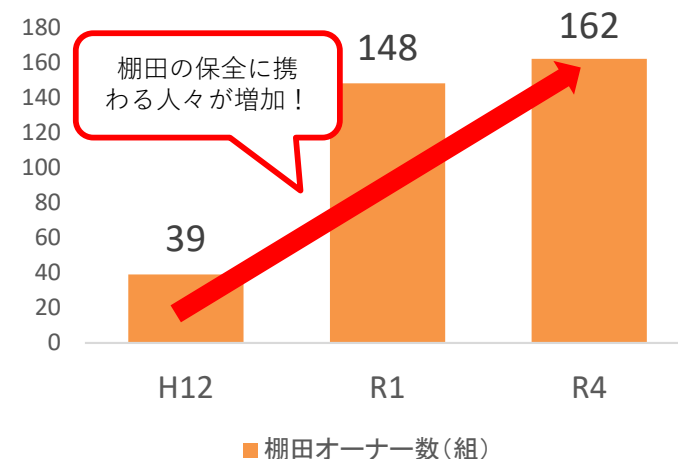


取組後（取組が棚田地域にもたらした効果）

土地利用

棚田オーナーが増加

棚田における共同管理作業の魅力発信により、棚田の保全活動に不可欠な棚田オーナーが増加

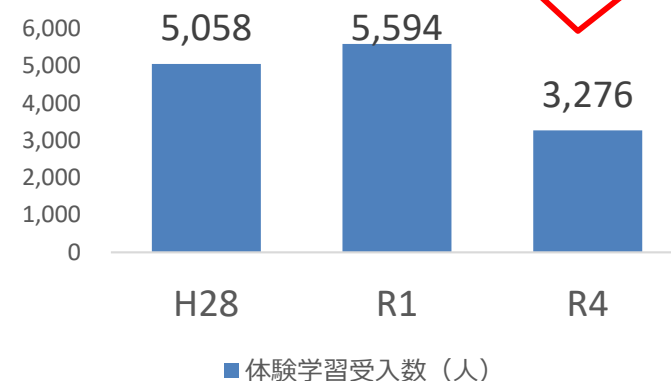


活力づくり

小学生体験学習の受入体制の整備

棚田の多面的機能や農村文化を伝える体験学習の受入体制を整備

コロナ禍の影響があったものの、教育面においても棚田の機能が発揮！



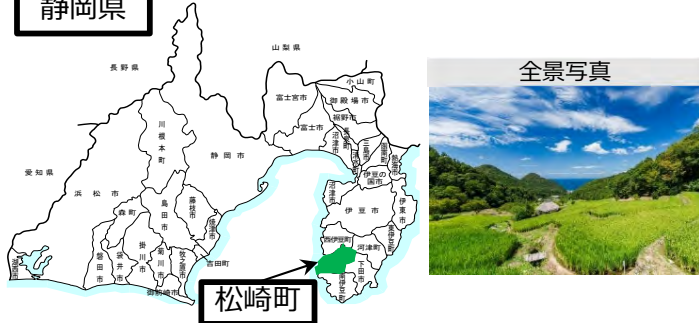
8 棚田法活用で持続可能な保全へ体制再整備

【石部の棚田・静岡県松崎町】

○従来から進めてきた棚田オーナー制度、地域おこし協力隊・企業・大学等との連携した活動をさらに拡大するとともに、関係人口拡大や地域活性化に取り組むため、ハード・ソフト両面で棚田保全体制を再整備。

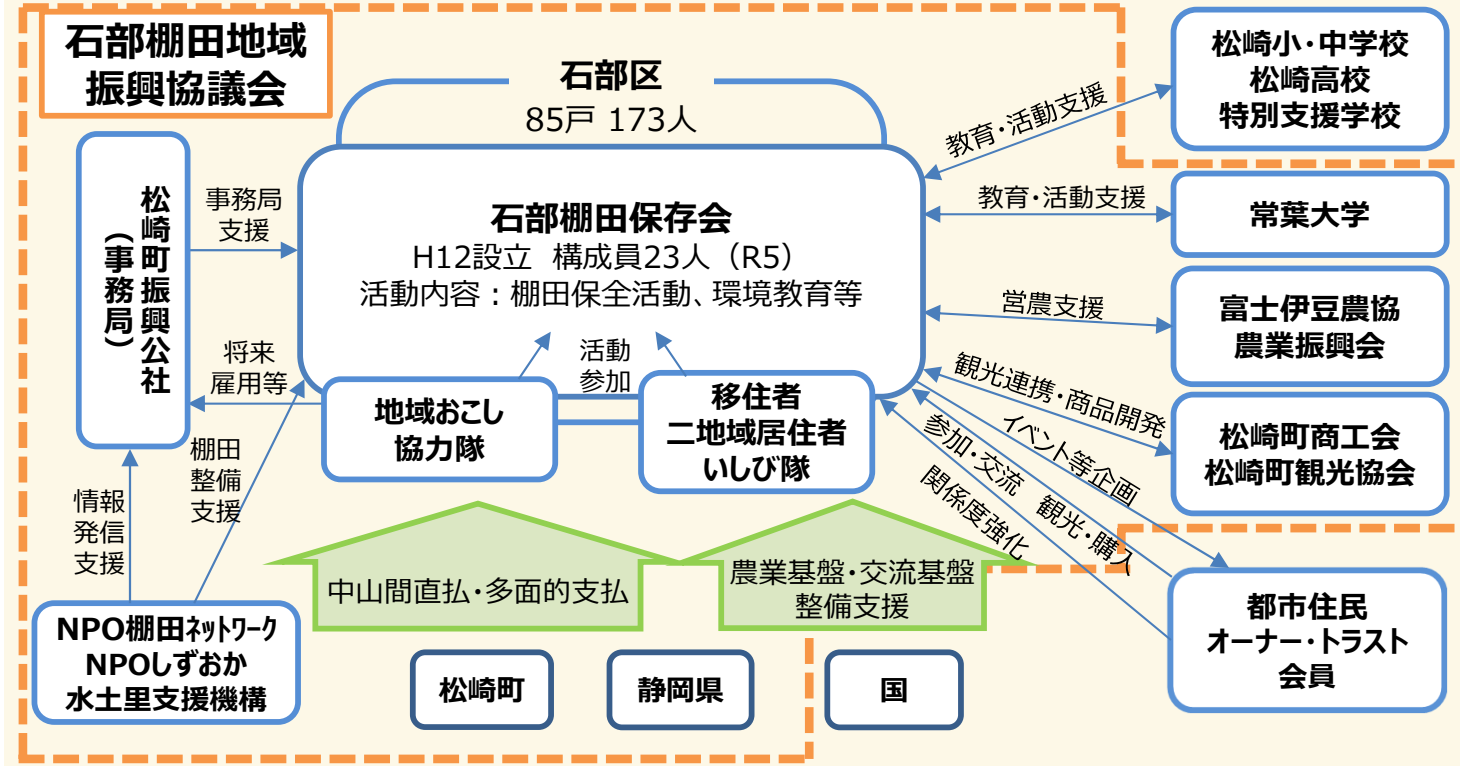
基本情報

静岡県



- 棚田の名称 : 石部棚田
- 面積 : 11.2ha
- 指定棚田地域 : 旧岩科村
- 認定・表彰実績 :
つなぐ棚田遺産認定、静岡県棚田等十選
農林水産祭むらづくり部門農林水産大臣賞
美の里づくりコンクール農村振興局長賞
オーライニッポン大賞、立ち上げる農山漁村
日本で最も美しい村（松崎町構成資産）
ふじのくに美しく品格のある邑知事顕彰

協議会の構成員と体制



活用した関係省庁の事業

- 棚田地域振興緊急対策交付金（農水省）
…近隣ボランティア（いしび隊）育成、情報発信ツール再整備
関係人口拡大のためのグッズ作成、鳥獣害対策調査・研修
- 地域おこし協力隊（総務省）
…棚田保全後継者・棚田活性化活動者の確保
- 中山間地域等直接支払（農水省）、多面的機能支払交付金（農水省）
…棚田及び農道・用排水施設の保全活動

コンシェルジュの活用状況

棚田地域振興法成立前から、保存会との意見交換や課題等の状況把握を行っていただき、関係事業の活用について情報交換や相談を行った。

現在、棚田の水管理等の労務負担軽減を図るため、「情報通信環境整備対策準備サポート事業」の活用を提案いただき、ICT技術を活用した棚田の水管理について検討を進めている。

取組前の地域の状況

基幹的農業者の高齢化が進行

棚田オーナー制度や、大学や企業などの労力支援はあるものの高齢化による地域の日常管理を行う担い手不足が課題で、棚田の持続的保全が危惧されていた。

集合写真



草刈写真



棚田の生産基盤・施設老朽化

取水写真



道写真



棚田地域振興活動計画に基づく 取組内容

活力づくり

関係人口・後継者の創出

オーナー会員向けに従来の田植え・収穫祭に加え、「お米づくり教室」として草取り体験等の体験イベントを実施した他、Tシャツ等棚田ファン向けの商品を開発した。また、保全会を補完するメンバーを発掘するため、オーナー会員や移住希望者、二地域居住者のPRを実施している。

体験会写真



近隣住民ボランティアの育成

保存会の日常管理作業への支援を行うため、近隣住民等によるボランティア「いしび隊」制度の登録を進め、現在38名が登録している。また、コロナ禍で低迷した商工観光業関係者等に草刈作業等に参加いただき、ボランティアの育成を図っている。

しごとづくり

棚田再整備基本構想を樹立

棚田地域振興協議会の設立を機に、棚田保全活動開始20年が経過し、老朽化や破損が進んだ取水や用排水施設、農道等の生産基盤施設、交流棟や水車小屋などの交流基盤施設等のハード整備、保全組織体制の見直しや新たな交流活動等のソフト対策について、再整備基本構想を樹立し、活動を進めている。

会議写真



取組後（取組が棚田地域にもたらした効果）

活力づくり

保全活動参加者の増加

棚田オーナー・トラスト会員の増加、一社一村しずおか運動に参画する企業・大学、ボランティアのいしび隊等の保全活動参加者が増加している。また、保存会の活動に参画するオーナー会員や移住希望者、二地域居住者が増加している。



しごとづくり

NPOの協力・民間資金の活用で、水口の改良

石部棚田の水管理は、田越の水口を石や土で水量をコントロールし配水するため、日常管理に多大な労力を要していたが、棚田再整備基本構想に基づき、協議会構成員のNPOが民間資金を調達し、R3・4年度で計36箇所の水口を、プラスチック製の水量コントロールが容易な施設に改良し、水管理労力の低減が進んでいる。

水口改良写真



○ 棚田オーナー制度や参加型イベントなど、多様な主体と連携しながら新たなチャレンジを継続し棚田ファンを獲得。棚田を未来に残すため、観光客受入やクラウドファンディング等で安定した保全活動を実現。

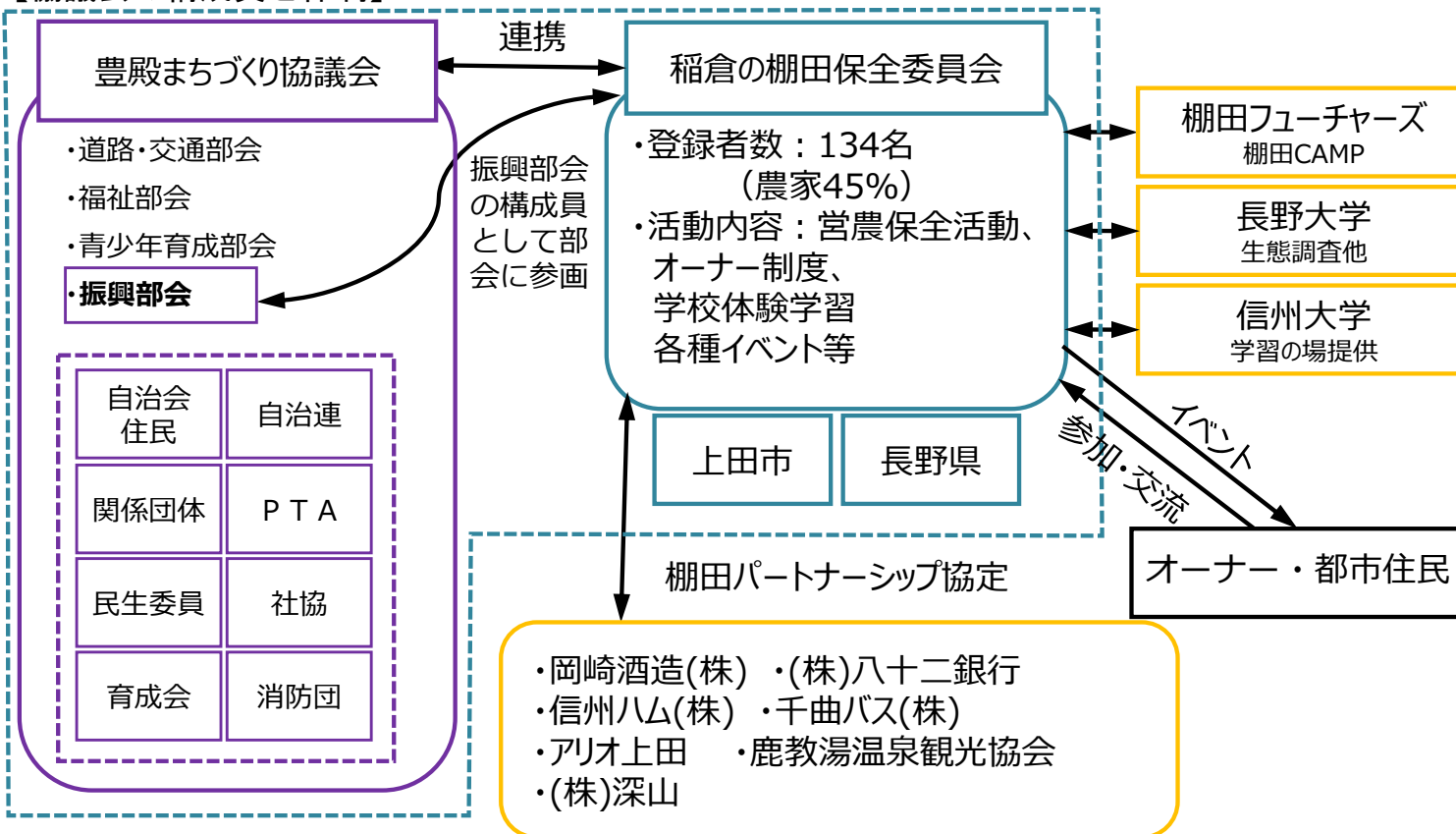
基本情報

長野県



- 棚田の名称 : 稲倉の棚田
- 面積 : 14.8ha
- 指定棚田地域 : 旧殿城村
- 認定・表彰実績 :
日本の棚田百選認定、つなぐ棚田遺産認定
平成25年度知事表彰「産業功労団体」受賞
令和4年度豊かなむらづくり農林水産大臣賞受賞
令和4年度農林水産祭天皇杯「むらづくり部門」
受賞
ディスカバー農山漁村(むら)の宝選定優れた景観
賞受賞

【協議会の構成員と体制】



活用した関係省庁の事業

- 地域おこし協力隊（総務省）
- 健全育成のための体験活動推進事業（文科省）
- 中山間総合整備事業（農水省）
- 中山間地域等直接支払（農水省）
- 多面的機能支払交付金（農水省）等



コンシェルジュの活用状況

- 協議会からコンシェルジュに相談したこと
定期的に現地へ足を運んで頂き、意見交換や、保全活動へ参加いただいた。協議会の構成員等法の活用方法について相談し、協議会組織、活動計画の認定に至る。

取組前の地域の状況

次世代への継承

農業従事者の高齢化により、農地の維持が困難となっていたが、日本の棚田百選に選ばれたことを契機に、地域住民により荒廃田の再生をはじめた。

その後、より多くの方に棚田に関わって貰えるように活動していたが、どのように継承していくかを課題としていた。

棚田を維持するためには安定した資金と労力の確保が必要

棚田を維持管理していくためには、地域住民だけでは困難な状況から、棚田オーナー制度の導入、学校課外学習体験等を進める。

- ・保全活動参加者 約20人 (H26)
- ・棚田米オーナー 24組 (H26)
- ・棚田に興味をもってもらうため「ほたる火まつり」を開催
- ・「案山子まつり」の開催

棚田地域振興活動計画に基づく

取組内容

しごとづくり

新しい魅力の開発・提案し棚田ファンを獲得！

- 棚田を観光資源としてイベントを開催
 - ・棚田に新たな景観を生む「棚田CAMP」
 - ・五穀豊穡と秋の害獣が鎮まることを祈念する「ししおどし」
 - ・遊びながら代掻きを行う「泥んこASOBI」等
- 企業等と連携して保全活動を進めるため、「棚田パートナーシップ協定」を締結
- 棚田における生態系を把握するため、長野大学と協力して環境調査や棚田内に造成したビオトープ池を中心に体験授業を実施。



土地利用

- 中山間地域等直接支払交付金、多面的機能支払交付金を活用し、棚田の耕作面積を維持する。

活力づくり

- 稲倉の棚田の保全に取り組むメンバーを増加させる。
- 棚田オーナー制度の実態に合わせて、棚田米オーナーと酒米オーナーの受入れ、さらに棚田米オーナーは棚田エリアオーナー、棚田サポーター、棚田ファンの参加方法を見直した。

取組後（取組が棚田地域にもたらした効果）

しごとづくり

- 参加型のイベントの開催により、棚田ファンを獲得し、棚田オーナーや保全活動参加者の増加
※保全活動参加者：134名のうち豊殿地域外74名
- 令和3年度に新型コロナの影響による収入が激減したためクラウドファンディングに挑戦！
返礼イベント「焼芋FIRE」が好評だったため、稲わらや枯葉を集めた焚火で行うイベントを令和4年度より本格化開催。
- 棚田パートナーシップ協定を観光業や食品関連企業等7社と締結し、コラボイベントを開催。
- 棚田CAMPイベント成功を契機に通年棚田を眺めながらキャンプをしたいとの要望を踏まえ、宿泊型農業体験エリアを造成。
- 地元小学生の課外学習の場を訪問し、自然学習体験授業の成果として、ネイチャーゲーム「ノーズ」で使用するヒントカードを、棚田で観察した生物を題材に製作。

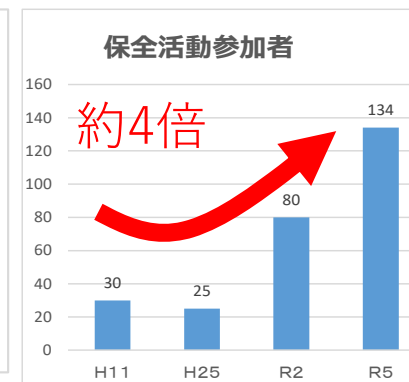
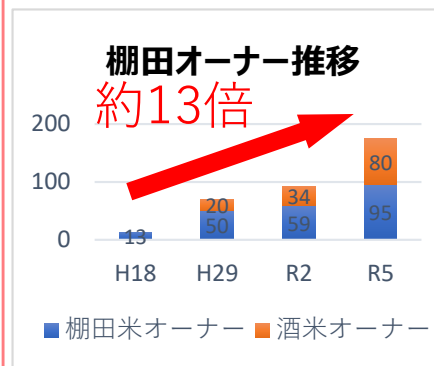


土地利用

- 保全活動メンバーも増え、棚田の耕作面積を維持

活力づくり

- オーナー制度の参加方法の見直しにより、オーナーの増加が実現



○ 地域住民の自発的な過疎対策により法人を立ち上げ、移住者が就農し溶け込みやすい環境づくりを地域一体となって整備。地域RMOにも積極的に取り組み、誰一人取り残さない持続的な農村を実現。

基本情報

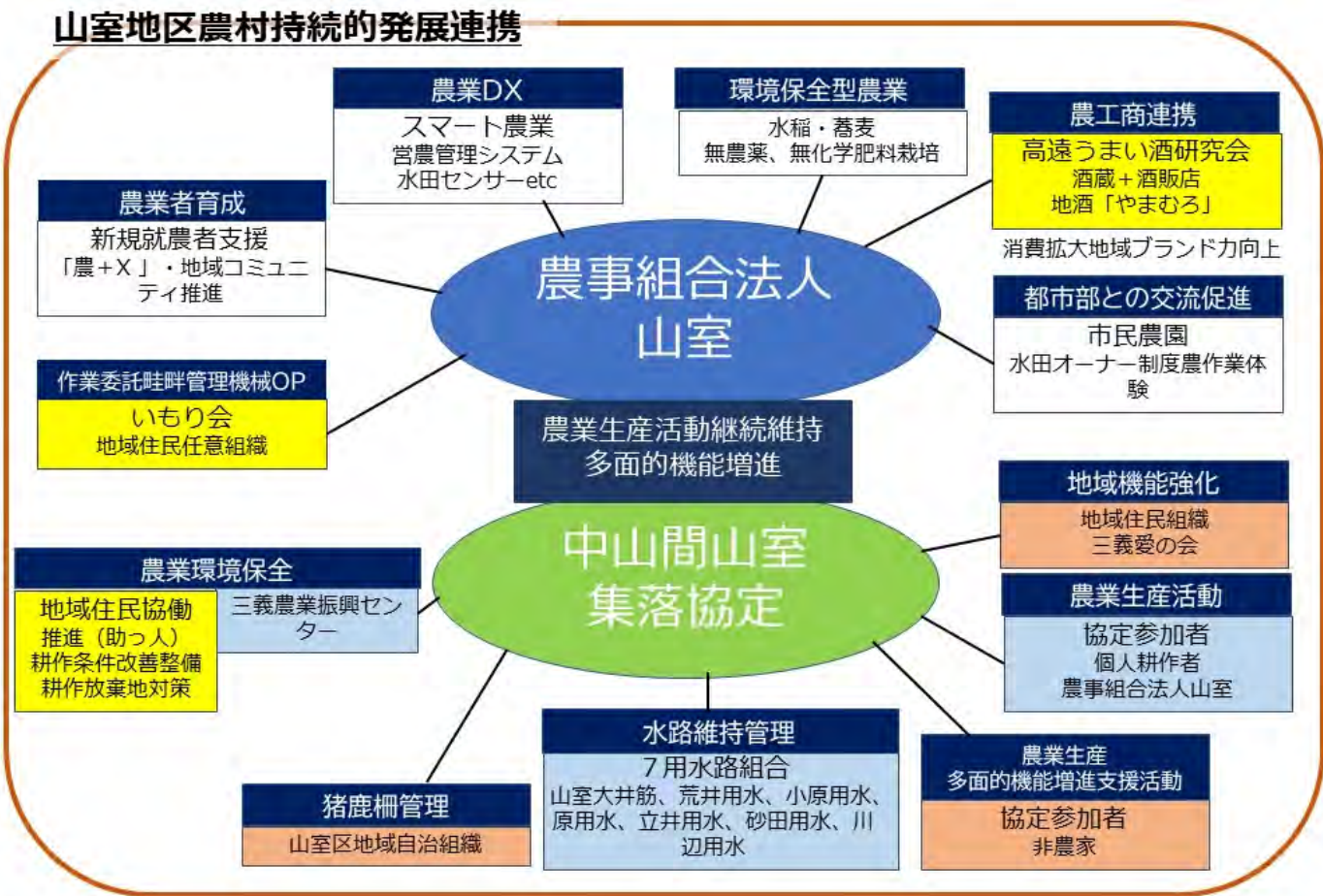
長野県



伊那市



- 棚田の名称 : 山室の棚田
- 面積 : 27.3ha
- 指定棚田地域 : 旧三義村
- 認定・表彰実績 :
 - つなぐ棚田遺産認定
 - 平成29年度豊かなむらづくり全国表彰事業 農林水産大臣賞受賞
 - 平成30年度関東農政局「ディスカバー農山漁村むらの宝」優良事例選定地区に選定
 - 平成30年度知事表彰「産業功労団体」受賞



活用した関係省庁の事業

- 中山間地域等直接支払（農水省）
- 環境保全型農業直接支払（農水省）
- 産地パワーアップ事業（農水省）
- 耕作条件改善事業（農水省） 等



コンシェルジュの活用状況

- 協議会からコンシェルジュに相談したことなし

取組前の地域の状況

課題

・山室地域では高齢化や過疎化が懸念されており、農地農業を守ることが地域を維持、継承できるとの考えから、地元農家の代替わりではなく、移住世帯との入れ替わりが重要ととらえ、移住者の受入れを積極的に行う方針をたてた。

土地利用

協定農用地は耕作、維持管理共に適正に管理されていたが、高齢化の進行による耕作放棄が危惧されていた。

しごとづくり

移住者に魅力を与える農業を展開していくための魅力づくりの一環として、環境保全型農業（有機／慣行の枠にとらわれない、バランスの取れた農業）を開始した。

→移住者が定住者となり、新たな移住者を呼び込むといった人の循環のある農村づくりを目指した。

くらしづくり

高齢化が進む集落内では通院、買い物弱者が増加していたが、支援組織がなかった。

棚田地域振興活動計画に基づく

取組内容

取組

- ・移住者を積極的に受け入れ、移住者が住みやすい街づくりにシフトした。
- ・中山間直払制度を利用し、農事組合法人が農業を、獣害対策や水路管理を地域全体で担い、農村全体で雇用を生み出した。
- ・移住者が保全活動に加わったことで、SNSでの情報発信にも力を入れている。

土地利用

耕作放棄が発生しそうな場合には、協定参加認定農業者が引き続き耕作する仕組みを協定内で申し合わせた。

しごとづくり

令和2年から協定農用地（119a）で環境保全型の有機農業を拡大させるため、雑草軽減対策としてそば・水稻の2年周期での田畑輪換を行った。令和7年3月までに有機農業面積を10a以上増加させる。（R3実績177a）

くらしづくり

令和4年から集落内住民組織「三義愛の会」を立ち上げ、交通弱者に対する送迎、通院や買い物支援のほか、雪かき等の生活支援のほか、高齢者が集える地域住民コミュニティの開設・運営を開始した。

活力づくり 営農+αの取組み

- ・市民農園（ふれあい農園）の開設
- ・棚田オーナー制度の開設
体験会後にそば打ちなどのイベントを行うことで口コミが広がり、オーナーのほとんどがリピーターに。
- ・定年帰農者や長野県就農支援制度、JA上伊那インターン研修制度の活用により新規就農者を確保。
- ・新規作目として、野菜栽培にも着目。
丁寧で細かな作業では女性が活躍している。
- ・市内の酒造会社と連携し、地酒の商品化を行う。その中の一つは地元酒販店限定販売としプレミアム地酒に。



取組後

（取組が棚田地域にもたらした効果）

これからの展開

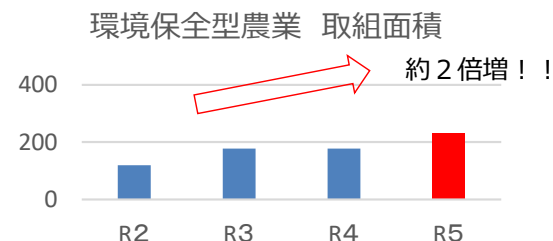
ここに住む皆が出来ることを分担して農村として地域を維持していこうという取り組みが広がり、農地農業を守り地理的な多面的機能と都市部との交流の中で田舎という多面的機能を発揮することで、地域のポテンシャル向上と持続性を作っていく。

土地利用

耕作放棄が発生しそうな場合には、協定参加認定農業者が引き続き耕作する仕組みを協定内で申し合わせるにより、未然に防いでいる。

しごとづくり

農事組合法人での環境保全型農業直接支払交付金の取組実績は年々規模を拡大している。



くらしづくり

事業実施効果の測定（利用者アンケート）を行い、事業へ反映させている。会員の育成と輪の拡大に取り組み、利用者が約3倍に増加している買い物、通院送迎R3実績17件、R4実績件数62件

コミュニティの醸成
（お茶飲まん会）

